

# 公共交通施策（案）費用シミュレーション

平成 31 年 2 月

鉾田市

## 目次

1.公共交通施策(案).....	1
2.費用シミュレーション .....	2
①タクシー助成券を 75 歳以上の方へ配布した場合の試算 .....	2
②タクシー助成券を 65 歳以上の単身高齢者へ配布した場合の試算.....	5
③タクシー助成券を 65 歳以上の高齢者のみの世帯の世帯員へ配布した場合の試算 .....	7
⑤デマンド型乗合タクシーを銚田市乗合自動車と同様に導入した場合の試算 .....	9
⑥デマンド型乗合タクシーを一般タクシー車両と併用して導入した場合の試算 .....	12
⑦地域が運営する移送サービスを導入し、支援を行う場合の試算 .....	16
⑧病院や商業施設と連携して移送サービスを導入し、支援を行う場合の試算 .....	16
⑨コミュニティバスを導入し、運行した場合の試算.....	17
参考1 鉄道駅・バス停からの距離とタクシー料金の関係 .....	19
参考2 1周 30km の目安となるルート.....	20

## 1.公共交通施策(案)

項 目			市の負担額の試算結果
タクシー助成券	①75 歳以上の方へ配布した場合	助成券 500 円配布	1,862 万円
		助成券 670 円配布	2,495 万円
	②65 歳以上の単身高齢者へ配布した場合	助成券 500 円配布	755 万円
		助成券 670 円配布	1,011 万円
	③65 歳以上の高齢者のみの世帯の世帯員へ配布した場合	助成券 500 円配布	1,896 万円
		助成券 670 円配布	2,540 万円
④鉄道を利用して通学する学生へ配布した場合			試算のためにはニーズの把握が必要
デマンド型乗合タクシー	⑤銚田市乗合自動車と同様に導入した場合	利用料金 300 円/回	4,364 万円
		利用料金 500 円/回	4,007 万円
	⑥一般タクシー車両と併用して導入した場合	乗車人数 2.5 人/台 利用料金 300 円/回	1,933 万円
		乗車人数 2.5 人/台 利用料金 500 円/回	1,576 万円
⑦地域が運営する移送サービスを導入し、支援を行う場合			初年度 530 万円
⑧病院や商業施設と連携した移送サービスに支援する場合			運行費用の差額又は半額
⑨コミュニティバスを導入し、運行した場合			1 ルート 3,060 万円 3 ルート 9,183 万円

(参考：対象者の人口)

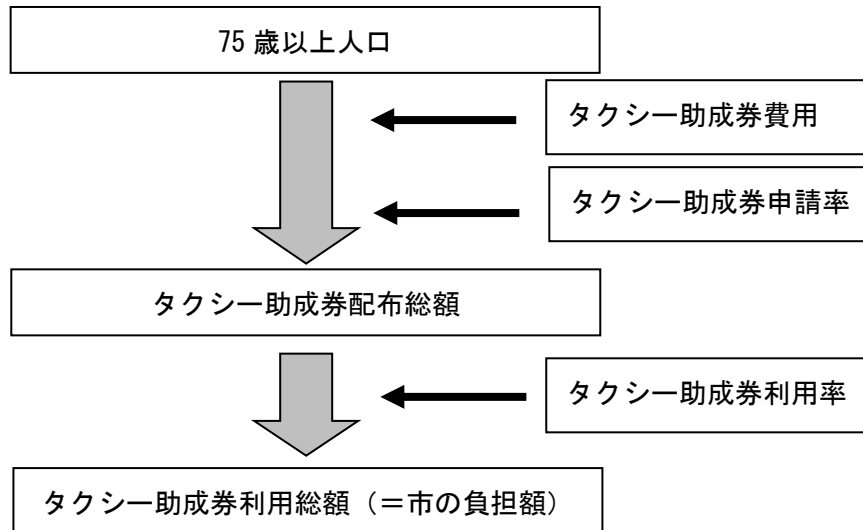
	2018 年 10/1 住民基本台帳人口
① 75 歳以上	8,055 人
② 65 歳以上の単身高齢者	3,266 人
③ 65 歳以上の高齢者のみの世帯の世帯員	8,203 人
⑤⑥ 65 歳以上	16,211 人

## 2.費用シミュレーション

### ①タクシー助成券を75歳以上の方へ配布した場合の試算

下図のフローに基づき、市の負担額を試算する。

<タクシー助成券を75歳以上の方へ配布した場合の試算フロー>



#### (ア) 75歳以上人口

配布対象者を75歳以上の方とする。

75歳以上人口は8,055人である。住民基本台帳からH30.10.1時点で抽出し、年齢要件はH31.4.1で集計した。

75歳以上人口
8,055人

(参考：各種人口の地区別の人数)

(単位：人)	75歳以上人口	65歳以上の高齢者単身世帯数	65歳以上の高齢者のみの世帯の世帯員数 (単身世帯含む)	65歳以上人口
合計	8,055	3,266	8,203	16,211
旭地区	1,553	540	1,284	3,206
鉾田地区	4,022	1,468	3,878	8,159
大洋地区	2,480	1,258	3,041	4,846

出典：住民基本台帳（H30.10.1時点で抽出し、年齢要件はH31.4.1で集計）

### (イ) タクシー助成券配布総額

潮来市と同様に 500 円のタクシー助成券を配布した場合と初乗り運賃相当額の 670 円のタクシー助成券を配布した場合を試算する。配布枚数は 1 人あたり年間 48 枚と設定する。

潮来市を参考にタクシー助成券申請率を 30%と仮定すると、配布総額は 500 円の場合 5,800 万円、670 円の場合 7,771 万円となる。

タクシー助成券 の金額	1 人あたり配布枚数	75 歳以上 人口	申請率	配布総額
500 円	年間 48 枚	8,055 人	30%	5,800 万円 (2,417 人分)
670 円				7,771 万円 (2,417 人分)

### (参考：他市のタクシー助成券の配布枚数)

	タクシー助成券 の金額	1 人あたり配布枚数	対象者の条件
潮来市	500 円	年間 48 枚	75 歳以上の運転免許非保有者
鹿嶋市	730 円	年間 24 枚	70 歳以上の運転免許非保有者
八街市	500 円	年間 48 枚	65 歳以上の運転免許非保有者

### (参考：他市のタクシー助成券の申請率)

	対象者の人数	申請者数	申請率	備考
潮来市	2,270 人	700 人	30.8%	
鹿嶋市	6,625 人	2,800 人	42.3%	対象者の人数は推計値
八街市	7,580 人	1,505 人	19.9%	

### (ウ) 市の負担額

潮来市と同様にタクシー助成券の利用率を 32.1%と仮定すると、市の負担額は 500 円の場合 1,862 万円、670 円の場合 2,495 万円となる。

タクシー助成 券の金額	配布総額	タクシー助成券利用 率	タクシー助成券利用総額 ＝市の負担額
500 円	5,800 万円	32.1%	1,862 万円
670 円	7,771 万円		2,495 万円

(参考：他市のタクシー助成券の利用率)

	年間配布枚数	年間使用枚数	利用率	備考
潮来市	33,600 枚	10,800 枚	32.1%	
鹿嶋市	63,082 枚	38,884 枚	61.6%	対象者の人数は推計値
八街市	30,424 枚	13,307 枚	43.7%	

#### (エ) 課題

- ・自宅からの利用だと迎車料金がかかり、タクシー助成券が 1 枚しか使えないと 500 円または 670 円の割引となるため、自己負担額が大きい。
- ・駅にはタクシーがあるので、駅から目的地への移動時に利用してもらうことも検討する必要がある。
- ・自己負担額を抑えるために、複数人で利用することも検討してもらう必要がある。
- ・地域によってはタクシー事業者数が少ないため、他市のタクシー事業者に協力してもらう必要がある。
- ・地域特性やPRの方法等によって申請率や利用率は変動する。
- ・配布対象の条件を年齢で区切ると、移動の支援を必要とする 75 歳未満の方へ対応できない。

## ②タクシー助成券を65歳以上の単身高齢者へ配布した場合の試算

①と同様のフローに基づき、市の負担額を試算する。

### (ア) 単身高齢者数

配布対象者を65歳以上の単身高齢者とする。

65歳以上の単身高齢者人口は3,266人である。住民基本台帳からH30.10.1時点で抽出し、年齢要件はH31.4.1で集計した。

65歳以上の単身高齢者数
3,266人

(参考：各種人口の地区別の人数)

(単位：人)	75歳以上人口	65歳以上の 高齢者単身世帯数	65歳以上の高齢者の みの世帯の世帯員数 (単身世帯含む)	65歳以上人口
合計	8,055	3,266	8,203	16,211
旭地区	1,553	540	1,284	3,206
鉾田地区	4,022	1,468	3,878	8,159
大洋地区	2,480	1,258	3,041	4,846

出典：住民基本台帳（H30.10.1時点で抽出し、年齢要件はH31.4.1で集計）

### (イ) タクシー助成券配布総額

潮来市と同様に500円のタクシー助成券を配布した場合と初乗り運賃相当額の670円のタクシー助成券を配布した場合を試算する。配布枚数は1人あたり年間48枚と設定する。

潮来市を参考にタクシー助成券申請率を30%と仮定すると、配布総額は500円の場合2,352万円、670円の場合3,151万円となる。

タクシー助成券 の金額	1人あたり配布枚 数	65歳以上の 単身高齢者数	申請率	配布総額
500円	年間48枚	3,266人	30%	2,352万円 (980人分)
670円				3,151万円 (980人分)

(参考：他市のタクシー助成券の配布枚数)

	タクシー助成券 の金額	1人あたり配布枚数	対象者の条件
潮来市	500 円	年間 48 枚	75 歳以上の運転免許非保有者
鹿嶋市	730 円	年間 24 枚	70 歳以上の運転免許非保有者
八街市	500 円	年間 48 枚	65 歳以上の運転免許非保有者

(参考：他市のタクシー助成券の申請率)

	対象者の人数	申請者数	申請率	備考
潮来市	2,270 人	700 人	30.8%	
鹿嶋市	6,625 人	2,800 人	42.3%	対象者の人数は推計値
八街市	7,580 人	1,505 人	19.9%	

#### (ウ) 市の負担額

潮来市と同様にタクシー助成券の利用率を 32.1%と仮定すると、市の負担額は 500 円の場合 755 万円、670 円の場合 1,011 万円となる。

タクシー助成 券の金額	配布総額	タクシー助成券利用 率	タクシー助成券利用総額 ＝市の負担額
500 円	2,352 万円	32.1%	755 万円
670 円	3,151 万円		1,011 万円

(参考：他市のタクシー助成券の利用率)

	年間配布枚数	年間使用枚数	利用率	備考
潮来市	33,600 枚	10,800 枚	32.1%	
鹿嶋市	63,082 枚	38,884 枚	61.6%	対象者の人数は推計値
八街市	30,424 枚	13,307 枚	43.7%	

#### (エ) 課題

- ・自宅からの利用だと迎車料金がかかり、タクシー助成券が 1 枚しか使えないと 500 円または 670 円の割引となるため、自己負担額が大きい。
- ・駅にはタクシーがいるので、駅から目的地への移動時に利用してもらうことも検討する必要がある。
- ・自己負担額を抑えるために、複数人で利用することも検討してもらう必要がある。
- ・地域によってはタクシー事業者数が少ないため、他市のタクシー事業者に協力してもらう必要がある。
- ・地域特性やPRの方法等によって申請率や利用率は変動する。

### ③タクシー助成券を65歳以上の高齢者のみの世帯の世帯員へ配布した場合の試算

①、②と同様のフローに基づき、市の負担額を試算する。

#### (ア) 高齢夫婦世帯数

配布対象者を65歳以上の高齢者のみの世帯の世帯員とする。

65歳以上の高齢者のみの世帯の世帯員は8,203人である。住民基本台帳からH30.10.1時点で抽出し、年齢要件はH31.4.1で集計した。

65歳以上の高齢者のみの世帯の世帯員数（単身世帯含む）
8,203人

(参考：各種人口の地区別の人数)

(単位：人)	75歳以上人口	65歳以上の高齢者単身世帯数	65歳以上の高齢者のみの世帯の世帯員数（単身世帯含む）	65歳以上人口
合計	8,055	3,266	8,203	16,211
旭地区	1,553	540	1,284	3,206
鉾田地区	4,022	1,468	3,878	8,159
大洋地区	2,480	1,258	3,041	4,846

出典：住民基本台帳（H30.10.1時点で抽出し、年齢要件はH31.4.1で集計）

#### (イ) タクシー助成券配布総額

潮来市と同様に500円のタクシー助成券を配布した場合と初乗り運賃相当額の670円のタクシー助成券を配布した場合を試算する。配布枚数は1人あたり年間48枚と設定する。

潮来市を参考にタクシー助成券申請率を30%と仮定すると、配布総額は500円の場合5,906万円、670円の場合7,914万円となる。

タクシー助成券の金額	1人あたり配布枚数	高齢者のみの世帯の世帯員数（単身世帯含む）	申請率	配布総額
500円	年間48枚	8,203人	30%	5,906万円 (2,461人分)
670円				7,914万円 (2,461人分)

(参考：他市のタクシー助成券の配布枚数)

	タクシー助成券 の金額	1人あたり配布枚数	対象者の条件
潮来市	500 円	年間 48 枚	75 歳以上の運転免許非保有者
鹿嶋市	730 円	年間 24 枚	70 歳以上の運転免許非保有者
八街市	500 円	年間 48 枚	65 歳以上の運転免許非保有者

(参考：他市のタクシー助成券の申請率)

	対象者の人数	申請者数	申請率	備考
潮来市	2,270 人	700 人	30.8%	
鹿嶋市	6,625 人	2,800 人	42.3%	対象者の人数は推計値
八街市	7,580 人	1,505 人	19.9%	

### (ウ) 市の負担額

潮来市と同様にタクシー助成券の利用率を 32.1%と仮定すると、市の負担額は 500 円の場合 1,896 万円、670 円の場合 2,540 万円となる。

タクシー助成 券の金額	配布総額	タクシー助成券利用 率	タクシー助成券利用総額 ＝市の負担額
500 円	5,906 万円	32.1%	1,896 万円
670 円	7,914 万円		2,540 万円

(参考：他市のタクシー助成券の利用率)

	年間配布枚数	年間使用枚数	利用率	備考
潮来市	33,600 枚	10,800 枚	32.1%	
鹿嶋市	63,082 枚	38,884 枚	61.6%	対象者の人数は推計値
八街市	30,424 枚	13,307 枚	43.7%	

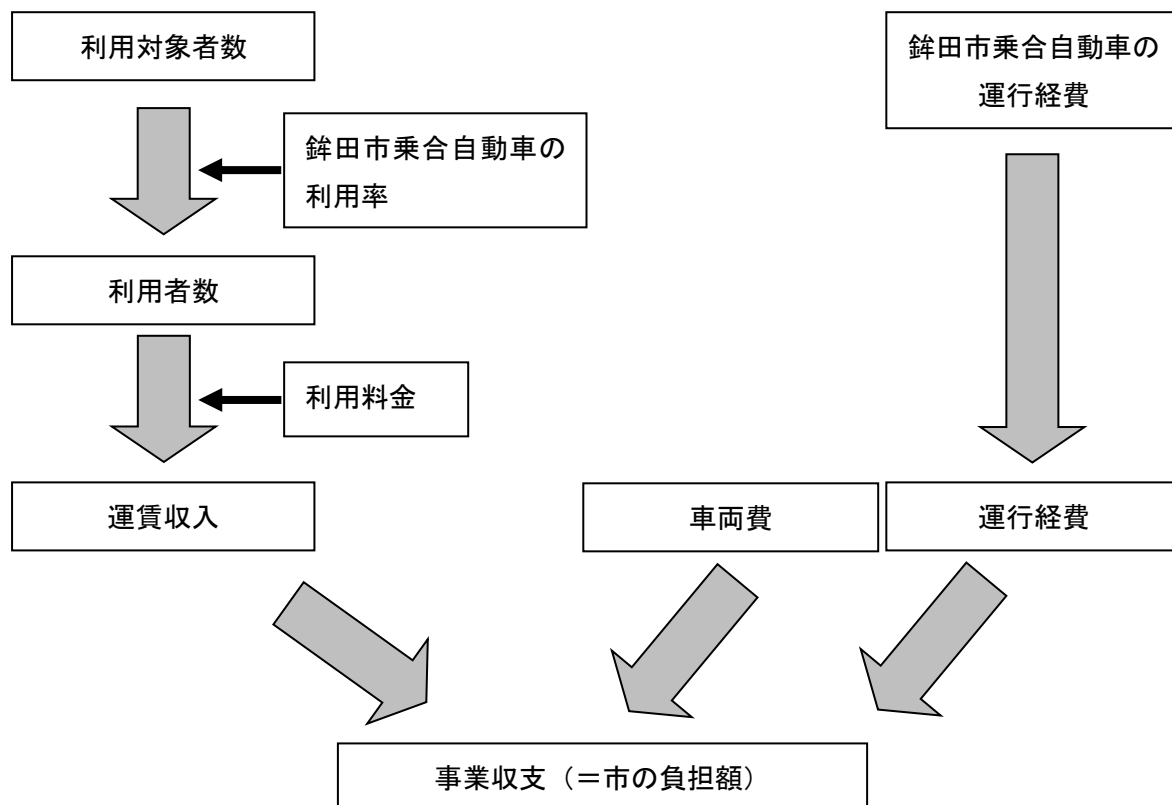
### (エ) 課題

- ・自宅からの利用だと迎車料金がかかり、タクシー助成券が 1 枚しか使えないと 500 円または 670 円の割引となるため、自己負担額が大きい。
- ・駅にはタクシーがいるので、駅から目的地への移動時に利用してもらうことも検討する必要がある。
- ・自己負担額を抑えるために、複数人で利用することも検討してもらう必要がある。
- ・地域によってはタクシー事業者数が少ないため、他市のタクシー事業者に協力してもらう必要がある。
- ・地域特性や P R の方法等によって申請率や利用率は変動する。

## ⑤デマンド型乗合タクシーを銚田市乗合自動車と同様に導入した場合の試算

大洋地区で運行している銚田市乗合自動車と同様に、タクシー事業者に委託する方法でデマンド型乗合タクシーを旭地区と銚田地区にも導入した場合の市の負担額を下図のフローに基づき試算する。

＜デマンド型乗合タクシーを導入した場合の試算フロー＞



### （ア）利用者数の試算

銚田市乗合自動車の対象区域の 65 歳以上人口あたりの年間利用者数の率（％）（以下、利用率と記載。）は下記の通りである。

銚田市乗合自動車の 対象区域の 65 歳以上人口	銚田市乗合自動車の利用者数		利用率
5,503 人	H26 年度	5,114 人/年	92.9%
	H27 年度	6,372 人/年	115.8%
	H28 年度	5,934 人/年	107.8%
	H29 年度	5,618 人/年	102.1%

出典：H27 国勢調査の 500mメッシュデータ

これまでの利用率を参考に、今後の利用区域の拡大や利便性の改善による伸びを加味して利用率を 110%と想定し、全市の 65 歳以上人口に乗じて試算すると、年間約 17,833 人の利用が見込まれる。平日のみの運行とすると 1 日あたり利用者数は 72.5 人である。

(単位：人)	65 歳以上人口	利用率	年間利用者数	運行日数 (平日)	1 日あたり 利用者数
旭地区	3,206 人	110%	3,527 人	246 日	14.3 人
鉾田地区	8,159 人	110%	8,975 人	246 日	36.5 人
大洋地区	4,846 人	110%	5,331 人	246 日	21.7 人
合計	16,211 人	110%	17,833 人	246 日	72.5 人

出典：住民基本台帳（H30.10.1 時点で抽出し、年齢要件は H31.4.1 で集計）

#### (イ) 運賃収入

利用料金を現況と同じ 1 回 300 円で試算すると 1 年間の運賃収入は約 535 万円となる。1 回 500 円で試算すると 1 年間の運賃収入は約 892 万円となる。

	年間利用者数	利用料金	年間運賃収入	利用料金	年間運賃収入
旭地区	3,527 人	300 円	106 万円	500 円	176 万円
鉾田地区	8,975 人	300 円	269 万円	500 円	449 万円
大洋地区	5,331 人	300 円	160 万円	500 円	267 万円
合計	17,833 人	300 円	535 万円	500 円	892 万円

#### (参考：県内他市町村のデマンド型乗合タクシーの利用料金)

基本料金	自治体名
250 円	常総市
300 円	古河市、石岡市、常陸太田市、笠間市、つくば市、常陸大宮市、那珂市、筑西市、坂東市、桜川市、神栖市、東海村、美浦村、利根町
400 円	かすみがうら市、阿見町
500 円	龍ヶ崎市、行方市、つくばみらい市、鹿嶋市
600 円	土浦市

※別途登録料が必要な場合、行先によって増額する場合、子供、高齢者、障がい者等に割引制度がある場合がある。

(ウ) 車両費

新たに旭地区と鉾田地区で運行するため、車両の確保が必要となる。現在大洋地区では3台（うち1台は予備）で運行している。さらに旭地区に3台、鉾田地区に5台を追加し、全11台での運行を想定する。

車両はワゴン車で、1台あたり600万円で5年償還を想定すると、年間1,320万円/年となる。

1台あたり車両費 (仮定)	購入車両数 (仮定)	償還年数 (仮定)	年間車両費
600万円/台	11台	5年	1,320万円/年

(エ) 運行経費

現況の鉾田市乗合自動車の委託料と利用者数から算出した1人あたり運行経費は、2,007円/人である。

鉾田市乗合自動車の委託料 (平成29年度)	鉾田市乗合自動車の利用者数 (平成29年度)	1人あたり運行経費
11,275,200円/年	5,618人/年	2,007円/人

各地区の年間利用者数に、1人あたりの運行経費を乗じて年間運行経費を算出すると、3,579万円となる。

地区	年間利用者数	1人あたり運行経費	年間運行経費
旭地区	3,527人	2,007円/人	708万円
鉾田地区	8,975人	2,007円/人	1,801万円
大洋地区	5,331人	2,007円/人	1,070万円
合計	17,833人		3,579万円

(オ) 市の負担額

先に試算した運賃収入と車両費と運行経費より、事業収支は年間4,007万円から4,364万円の赤字と予想される。

利用料金	年間運賃収入	年間車両費	年間運行経費	年間事業収支
300円/回	535万円	1,320万円	3,579万円	▲4,364万円
500円/回	892万円			▲4,007万円

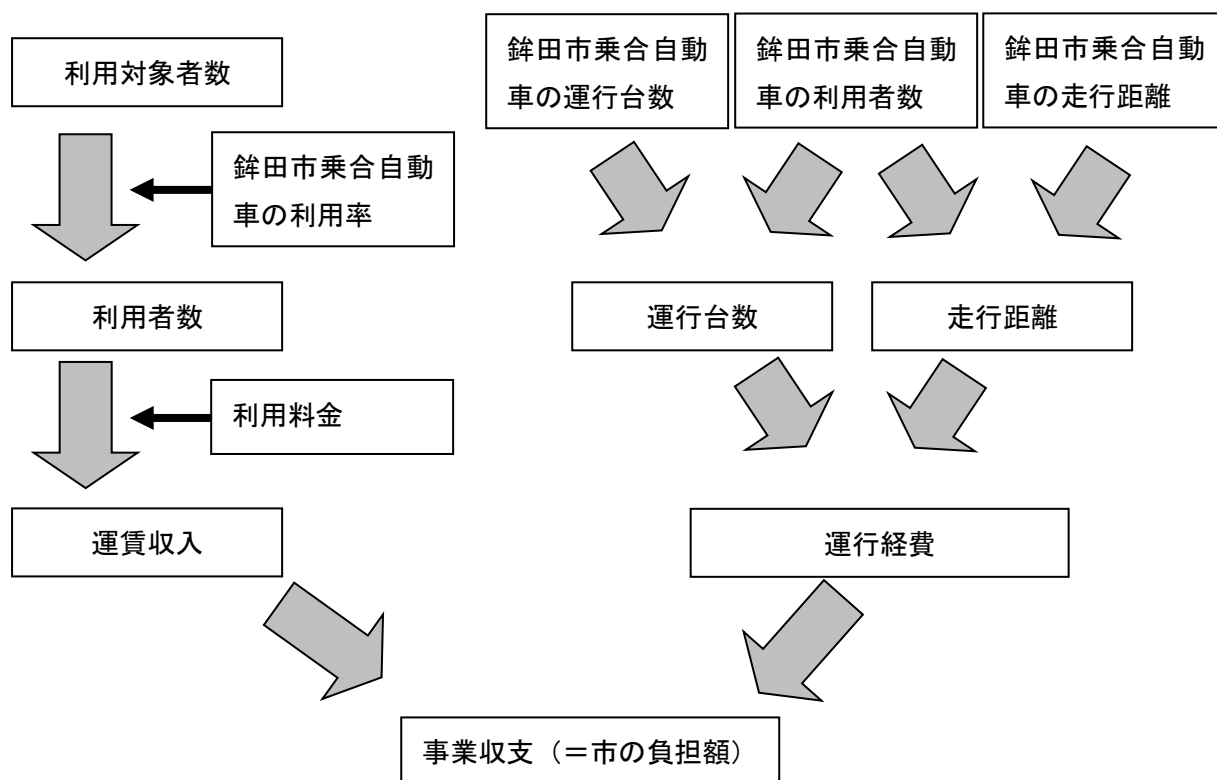
(カ) 課題

- ・地域によってはタクシー事業者数が少なく、他市のタクシー事業者に委託する必要がある。
- ・運行車両数が限られるため、予約が取れない場合がある。

## ⑥デマンド型乗合タクシーを一般タクシー車両と併用して導入した場合の試算

デマンド型乗合タクシーの予約があったときのみ、一般タクシーが乗合タクシーとして運行する方法で、デマンド型乗合タクシーを全市3地区（旭地区、鉾田地区、大洋地区）に導入した場合の市の負担額を下図のフローに基づき、試算する。

＜デマンド型乗合タクシーを導入した場合の試算フロー＞



### （ア）利用者数の試算

鉾田市乗合自動車の対象区域の65歳以上人口あたりの年間利用者数の率（％）（以下、利用率と記載。）は下記の通りである。

鉾田市乗合自動車の 対象区域の65歳以上人口	鉾田市乗合自動車の利用者数		利用率
5,503人	H26年度	5,114人/年	92.9%
	H27年度	6,372人/年	115.8%
	H28年度	5,934人/年	107.8%
	H29年度	5,618人/年	102.1%

出典：H27国勢調査の500mメッシュデータ

これまでの利用率を参考に、今後の利用区域の拡大や利便性の改善による伸びを加味して利用率を 110%と想定し、全市の 65 歳以上人口に乗じて試算すると、年間約 17,833 人の利用が見込まれる。平日のみの運行とすると 1 日あたり利用者数は 72.5 人である。

(単位：人)	65 歳以上人口	利用率	年間利用者数	運行日数 (平日)	1 日あたり 利用者数
旭地区	3,206 人	110%	3,527 人	246 日	14.3 人
鉾田地区	8,159 人	110%	8,975 人	246 日	36.5 人
大洋地区	4,846 人	110%	5,331 人	246 日	21.7 人
合計	16,211 人	110%	17,833 人	246 日	72.5 人

出典：住民基本台帳（H30.10.1 時点で抽出し、年齢要件は H31.4.1 で集計）

#### (イ) 運賃収入

利用料金を現況と同じ 1 回 300 円で試算すると 1 年間の運賃収入は約 535 万円となる。1 回 500 円で試算すると 1 年間の運賃収入は約 892 万円となる。

	年間利用者数	利用料金	年間運賃収入	利用料金	年間運賃収入
旭地区	3,527 人	300 円	106 万円	500 円	176 万円
鉾田地区	8,975 人	300 円	269 万円	500 円	449 万円
大洋地区	5,331 人	300 円	160 万円	500 円	267 万円
合計	17,833 人	300 円	535 万円	500 円	892 万円

#### (参考：県内他市町村のデマンド型乗合タクシーの利用料金)

基本料金	自治体名
250 円	常総市
300 円	古河市、石岡市、常陸太田市、笠間市、つくば市、常陸大宮市、那珂市、筑西市、坂東市、桜川市、神栖市、東海村、美浦村、利根町
400 円	かすみがうら市、阿見町
500 円	龍ヶ崎市、行方市、つくばみらい市、鹿嶋市
600 円	土浦市

※別途登録料が必要な場合、行先によって増額する場合、子供、高齢者、障がい者等に割引制度がある場合がある。

(ウ) 運行台数

銚田市乗合自動車は湖岸ルート用と海岸ルート用の2台の車両で運行している。1台あたりの平均乗車人数は約2.5人/台である。

銚田市乗合自動車の 1ヶ月あたりの利用者数 (H30年12月)	銚田市乗合自動車の 1ヶ月あたりの運行台数 (H30年12月)	1台あたりの乗車人数
472人/月	186台/月	2.5人/台

1便あたり利用者数を2.5人/台と仮定すると、年間運行台数は7,133台となる。

年間利用者数	1台あたり利用者数	年間運行台数	年間運行日数	1日あたり 運行台数
17,833人	2.5人/台	7,133台/年	244日	29.2台/日

(エ) 運行経費

車両は一般のタクシー車両を併用するため、タクシー事業者が確保する。タクシーの利用料金を運行経費とする。

銚田市乗合自動車の走行距離と利用者数から算出した1人あたり利用距離は約9.0kmである。

年度	銚田市乗合自動車の 走行距離(迎車や回 送を含む)	銚田市乗合自動車の 利用者数	1人あたり利用距離	
H26年度	49,274 km/年	5,114人/年	9.6 km/人	平均9.0 km/人
H27年度	52,154 km/年	6,372人/年	8.2 km/人	
H28年度	52,163 km/年	5,934人/年	8.8 km/人	
H29年度	51,961 km/年	5,618人/年	9.2 km/人	

1人あたり利用距離9.0kmの半分を送迎・回送距離と想定し、1台あたり利用者数を2.5人と仮定して算出した運行料金、すなわち運行経費は以下のとおりとなる。

1人あたり利用距離 (送迎距離別)	1台あたり利用者数	1台あたり利用距離	1台あたりの運行経費 運行料金(迎車料金含む)
4.5km	2.5人/台	11.3km/台	3,460円/台

注：運行料金は、初乗運賃2kmまで670円、加算運賃2km以後307mごとに90円加算で試算。(出典：茨城県ハイヤー・タクシー協会ホームページ)

注：迎車料金は、迎車距離が2km以内の場合運行料金と同じ制度、2km以上の場合下限運賃が適用され670円として試算。

1 台あたりの運行経費に年間運行台数を乗じて年間運行経費を算出すると、2,468 万円となる。現況の銚田市乗合自動車と同様にタクシー事業者に運行委託する方法よりも運行経費を抑えることができる。

1 台あたりの運行経費	年間運行台数	年間運行経費
3,460 円/台	7,133 台/年	2,468 万円/年

(オ) 市の負担額

先に試算した運賃収入と運行経費より、1 便あたり 2.5 人乗車で、利用料金が 1 回 300 円のと  
き年間約 1,933 万円の赤字、利用料金が 1 回 500 円のととき年間 1,576 万円の赤字と予想される。

利用料金	年間運賃収入	年間運行経費	年間事業収支
300 円/回	535 万円	2,468 万円	▲1,933 万円
500 円/回	892 万円		▲1,576 万円

(カ) 課題

- ・タクシー事業者は一般のタクシー事業と同時に乗合タクシー事業を行うため、一般のタクシー事業が混雑している場合に乗合タクシー事業に配車できない可能性がある。
- ・運行経費を抑えるために、複数人での利用を促す必要がある。
- ・現在の銚田市乗合自動車は最大 8 名の利用者が同時に乗車可能なワゴン車で運行しているが、タクシーを活用する場合、利用者が最大 4 名乗れるセダン車が多く、必要車両数が増える。
- ・現在の銚田市乗合自動車は利用時間帯が集中する傾向がある。全体の 24% は 5 人以上の利用があり、セダン車両のタクシーで対応する場合 2 台以上必要となる。

### ⑦地域が運営する移送サービスを導入し、支援を行う場合の試算

#### (ア) 市の負担額

地域が運営する移送サービスは、地域と市が協働で行い、利用者はガソリン代の実費負担で利用でき、市は車両費と保険費の負担を行うことを想定する。

ワゴン車かセダン車かといった車両の種類及び新車か中古車か等、また、保険内容によって費用は異なると考えられるが、市の負担額は概ね以下の額程度であると想定される。

車両費	500 万円（初年度のみ、買取の場合）
車両維持費（車検代等）	20 万円（車検の年度等）
保険費	10 万円／年

#### (イ) 課題

- ・移送サービスを運営する団体が必要となる。

### ⑧病院や商業施設と連携して移送サービスを導入し、支援を行う場合の試算

#### (ア) 市の負担額

病院や商業施設が運行する送迎バスに、他の商業施設や住宅地にも停車してもらい、施設を利用しない市民にも乗車できるようにすることを想定する。

市は従来の送迎バスと運行費用の差額分または運行費用の半額を負担することが想定される。

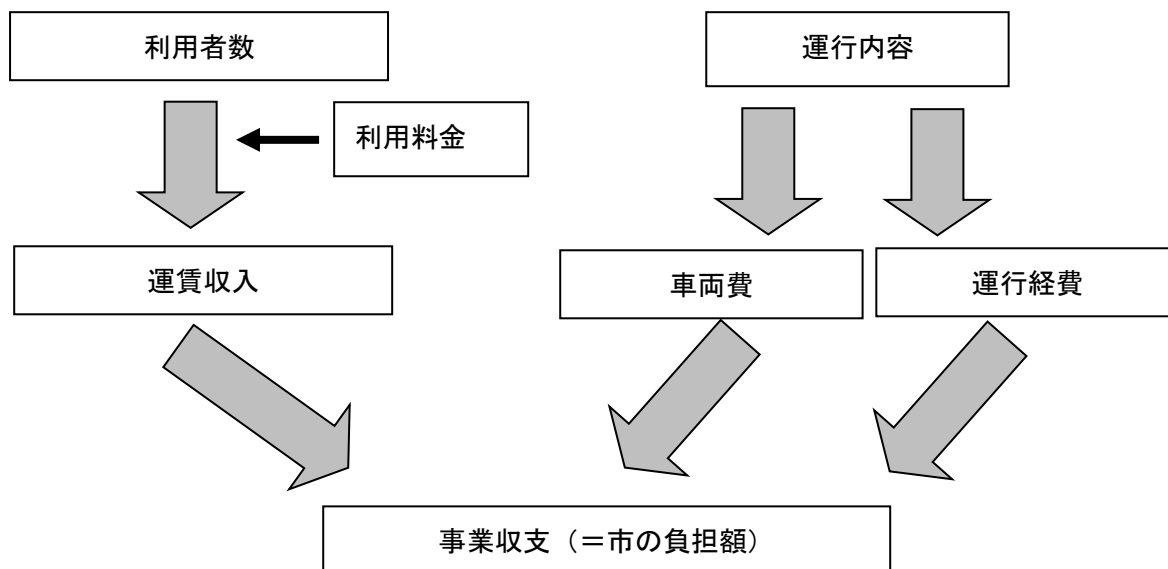
#### (イ) 課題

- ・費用負担や車両の保有、責任の所在等について、病院や商業施設と市の調整が必要となる。
- ・満席で病院や商業施設の利用客が利用できないということも想定して、利用方法について検討する必要がある。

## ⑨コミュニティバスを導入し、運行した場合の試算

銚田市が運営するコミュニティバスを導入した場合の市の負担額を下図のフローに基づき、試算する。

＜コミュニティバスを導入し、運行した場合の試算フロー＞



### （ア）運行内容の仮定

公共交通会議での意見をもとに下記条件のコミュニティバスの導入を想定する。

- ・ 1 ルート 1 往復 30km
- ・ 運賃は 1 乗車 300 円
- ・ 運行時間帯は 7 : 00～20 : 00
- ・ 運行間隔は 1 時間半に 1 便、1 ルートあたり 9 便/日
- ・ 365 日運行

### （イ）運賃収入

1 ルートあたり 9 便/日の運行と仮定し、1 便あたり 2 人※の乗車を想定し、運賃 300 円/回とすると、1 日あたりの運賃収入は、1 ルートあたり 5,400 円/日となる。

年間 365 日運行とすると、1 ルートあたり約 197 万円/年となる。

ルート数 （仮定）	運行便数 （仮定）	利用者数 （仮定）	運賃 （仮定）	1 日あたり 運賃収入	年間 運行日数 （仮定）	年間運賃収入
1 ルート	9 便/ルート	2 人/便	300 円/回	5,400 円/日	365 日	197 万円/年
3 ルート	9 便/ルート	2 人/便	300 円/回	16,200 円/日	365 日	591 万円/年
6 ルート	9 便/ルート	2 人/便	300 円/回	32,400 円/日	365 日	1,183 万円/年

※利用者数は、鹿行広域バス神宮・あやめライン及び白帆・あやめラインの実績値の平均値を仮定。

(ウ) 車両費

運賃収入を得て運行するためには、路線バスとしての運行が原則となる。

路線バスとして運行するため、バリアフリー化が求められる。小型のバス車両を想定し、1台あたり2,000万円と想定する。

1ルート1台で運行すると仮定して、車両費2,000万円で5年償還を想定すると、1ルートあたり年間400万円/年となる。

車両数（仮定）	1台あたり車両費（仮定）	償還年数（仮定）	年間車両費
1台	2,000万円/台	5年	400万円/年
3台	2,000万円/台	5年	1,200万円/年
6台	2,000万円/台	5年	2,400万円/年

(エ) 運行経費

7:00~20:00まで1往復30kmを1時間半ごとに1便運行すると仮定すると、1ルートあたり9便/日の運行となる。

運行キロあたりの経費を290円/kmと想定すると、1日あたりの運行経費は1ルートあたり約8万円/日となる。

年間365日運行とすると、1ルートあたり約2,857万円/年となる。

ルート数（仮定）	1ルートあたりの運行便数（仮定）	1ルートの運行キロ（仮定）	運行キロあたり経費（仮定）	1日あたり運行経費	年間運行日数（仮定）	年間運行経費
1ルート	9便/日	30km	290円/km	7.8万円/日	365日	2,857万円/年
3ルート	9便/日	30km	290円/km	23万円/日	365日	8,574万円/年
6ルート	9便/日	30km	290円/km	47万円/日	365日	17,148万円/年

(オ) 市の負担額

先に試算した運賃収入と車両費と運行経費より、事業収支は1ルートあたり年間3,060万円の赤字と予想される。

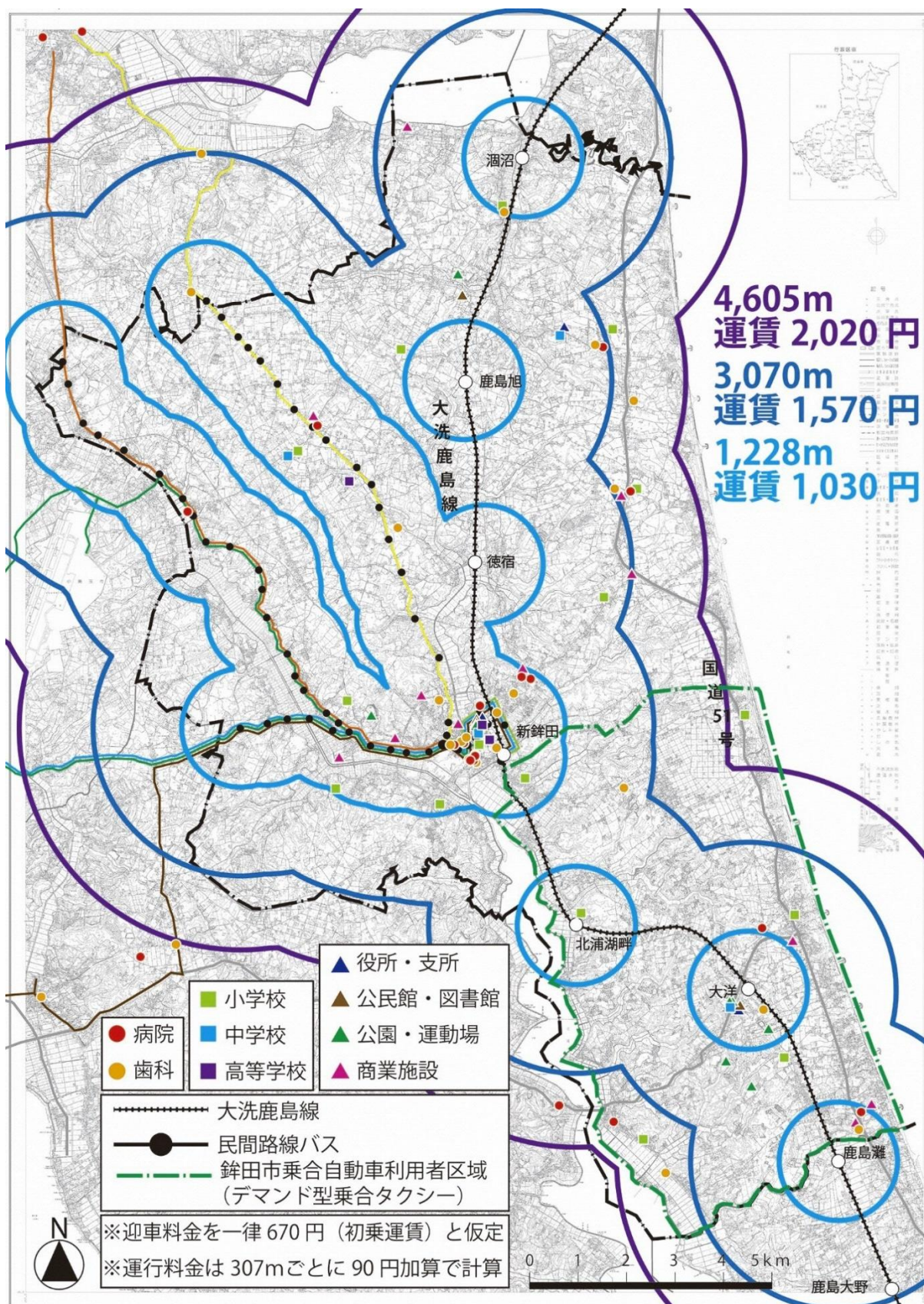
ルート数	年間運賃収入	年間車両費	年間運行経費	年間事業収支
1ルート	197万円	400万円	2,857万円	▲3,060万円
3ルート	591万円	1,200万円	8,574万円	▲9,183万円
6ルート	1,183万円	2,400万円	17,148万円	▲18,365万円

(カ) 課題

- ・バス停までの交通手段の確保が必要である。
- ・鉾田市は可住地が広く、広範囲を網羅するには複数ルートの設定が必要となり、運行経費が高くなる。
- ・長距離ルートは運行経費が高くなる。
- ・利便性を確保するため、運行頻度を高くすると運行経費が高くなる。
- ・車両の確保や運転手の確保、路線バスの運行委託が必要となり、期間を要する。

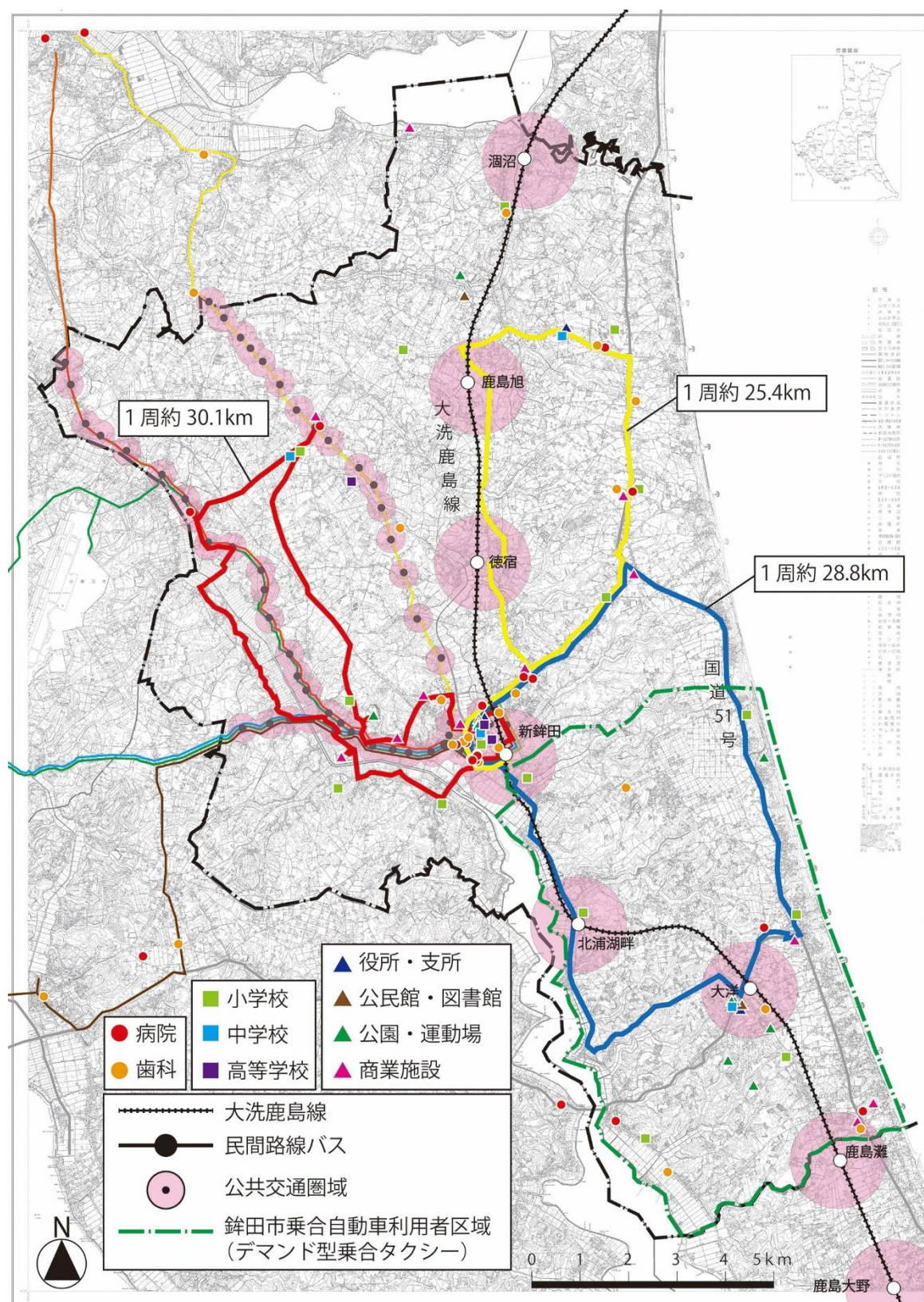
## 参考1 鉄道駅・バス停からの距離とタクシー料金の関係

鉄道駅やバス停からの距離とタクシー料金の関係を下図に示す。



## 参考2 1周 30km の目安となるルート

1 周約 30km の距離の目安となるルートを下図に示す。時速 20km の場合に約 1 時間半で運行できる。



※距離の目安として示したものであり、公共交通の運行を想定するルートではない。